

巻 頭 言

日本東洋医学研究機関連絡協議会会長

北里研究所東洋医学総合研究所所長

花 輪 壽 彦

平素は日本東洋医学連絡協議会（日東医協）の活動に対して、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

いつも申し上げますように、この協議会の設立目的は各研究機関の横の連携を密にして、国内外の諸活動を円滑に進めようというものであります。

昨年の和漢医薬学会で富山医科薬科大学の柴原直利先生がオーガナイザーをされたより「オール・ジャパン・コンソーシアム形成について」というシンポジウムが開かれました。

寺澤捷年教授より「なぜオール・ジャパン・コンソーシアム形成が必要か」という基調講演がなされました。

「……………そこで、「東洋の知」と「西洋医学薬」の融和に意義を感じる同志を糾合して、知的クラスターを形成する必要がある。All Japan Consortiumはこの意味での研究者集団と理解している。

それでは、この和漢医薬学会をはじめ既存の

関連学会との関係はどのようなものになるのであろうか。私は、このコンソーシアムは日常的に情報を交換し、また研究者の交流、共同研究の仲立ちをする機動性のある組織体で、既存の学会の活動とは競合するものでもなければ、況やその活動を阻害するような性質のものではないと理解している。このコンソーシアムはオール・ジャパンとは称するが、国際的な人材の育成にも十分に配慮するものでなければならないと考えている。」

と述べておられます。

実はこのことこそ矢数道明先生がこの協議会を創られた主旨のひとつです。

今年度はこのあたりから本会のありかたを考えていこうと思います。

結びに、本年も「会報」作りに御協力の程、感謝申し上げます。研究成果の年次報告は本会活動の一次資料となるものです。よろしく願いいたします。